ネコヤナギとされていたフリソデヤナギ Salix × leucopithecia Kimura

図１ 持ち帰った葉の裏面

サイト上に掲載されている私的な植物図鑑内で，いくつかあるヤナギ科植物のチェックの依頼を受け，拝見した中にネコヤナギ Salix gracilistula Miq. とされているヤナギ属があった。もともとヤナギ属の植物は類似形種が多く，画像での同定は本来無理な植物群であるが，適切な画像によりはっきり同定できる種類が和名不詳とされていたので種名を伝え，ついでにこのネコヤナギとされた植物にもコメントしておいた。その後このネコヤナギとされていた植物を現地で検証する機会があり，フリソデヤナギ(ネコヤナギ × バッコヤナギ)と同定するに至った。

《手順１》サイト内の画像をみて，ネコヤナギの標準形からは少し葉幅の広さと側脈の感じに違和感をわずかに感じたが，一般的に最も知られているネコヤナギを間違うことは少ないと思い込んで，「・ネコヤナギは合っていると思いますが，もしかしたら違う可能性もあります？」とコメントしておいた。

《手順２》現地で植物体をみて，

◇生育環境：一級河川の川岸で護岸ブロックが施工され，通常の水辺からは数メートル小高い場所に生育していた。水際を好むネコヤナギではないとまず直感した。(自然状態でのネコヤナギは，かなり水際に近いところや水をかぶるような環境を好み，バッコヤナギ S. bakko Kimura はやや乾いたところにも生育する)。(フリソデヤナギの野生品をまだみていないが，栽培品では公園の乾いたところから，池畔近くに植栽されていることが多い)

◇葉形：本個体は楕円形の葉が多くみられ，ネコヤナギの葉より葉幅の広さを感じた。(バッコヤナギの葉は楕円形～長楕円形で，対して一般的なネコヤナギの葉形は長楕円形～細長楕円形でバッコヤナギと比べて葉幅が狭い)

◇葉脈：本個体の葉はネコヤナギより側脈の間隔が広く感じられ，ネコヤナギとは異なるものと判断。(ネコヤナギの側脈は間隔が狭く整った弧状で特徴的である)

以上のことから本種はネコヤナギではなく，フリソデヤナギの可能性をが高くなった。

《手順３》帰宅後の葉の検証：裏面の毛を調べると，明らかに縮れた毛が多く，ネコヤナギではないことは明らかであった。(ネコヤナギの葉裏の毛は直毛が多く，バッコヤナナギは縮れた毛である。フリソデヤナギもバッコヤナギよりは毛の量が少ないが，縮毛である)

なお，理論上はバッコヤナギの可能性も考えられるが，バッコヤナギは通常はやや山寄り以上に生育する高木～小高木であることから，都市の河川敷に生育している低木状の本個体とは考え難い。おそらくは付近の植生の様子からフリソデヤナギを植栽していた名残とも考えられ，花をみていない段階ではあるがフリソデヤナギと同定した。本種は広く雄株が植栽されていることから，植栽由来であれば雄株の可能性が高く，雄花の花糸の確認によりバッコヤナギとの区別が完了する。(2012/7/2 山口純一)